

乳ガン患者、子宮頸ガン患者の 免疫力を高めてQOLを向上させ 不定愁訴にも効果を発揮する

RBS 米ぬか多糖体



吉沢クリニック院長 吉澤伸二

よしざわ しんじ
東邦大学医学部卒業。東邦大学医学部講師、藤枝市立病院院長を経て現吉沢クリニックを開業。日本美容外科学界等を歴任。学会発表も多数。
※米ぬか多糖体免疫研究会
(http://rbsnuka.com)

ヘミセルロースBを吸収しやすした「RBS米ぬか多糖体」

美容整形からガンが発見されることも多い

当院は、美容整形を主体としたクリニックです。美容整形というと、顔の整形手術を思い浮かべる人が多いと思いますが、当院では豊胸術のほか、腫の縮小など陰部の美容整形なども数多く行っています。開業以来、カウンセリングから手術、アフターケアまで、美容外科手術歴40年の私が、責任を持って一人で行っています。

このような診察から手術の流れの

中で、乳ガンや子宮頸ガンを発見することがたびたびあります。かなり進行している事例もあり、「もつと早く来てくれていれば……」と悔やまれることも少なくありません。

患者さんにガンを発見したときは、ガン治療を優先させて、大学病院などガン治療専門の医療機関へ紹介状を書きます。その後、治療が落ち着いてから私のクリニックに改めて来られる患者さんも多く、そのさいには、ガン手術の予後なども含めて相談に乗っています。

ガンの手術後、抗ガン剤や放射線

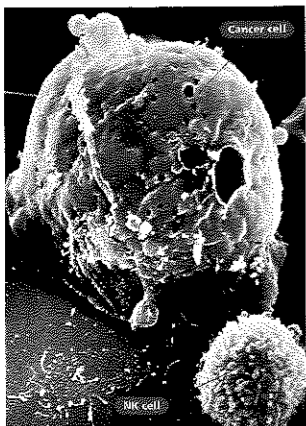
っている人のほうが、皮下脂肪の過酸化脂質の濃度が低く現れています。これは、RBS米ぬか多糖体をとっていると、活性酸素の発生が少ないことを示唆しています。

活性酸素は細胞を破壊し、細胞をガン化させることもあり、病気の90%はこの活性酸素が原因ではないかといわれています。活性酸素を減らすことが健康につながる、ということも過言ではないのです。

RBS米ぬか多糖体を摂取していると、気力と体力が底上げされてくるのを感じることでしよう。

更年期障害の軽減にも役立つ

このような効果は、精神安定剤でNK細胞(右)は、免疫力を担うリンパ球の1つ。ウイルス感染細胞やがん細胞を撃退する。



はなかなか改善されない、更年期特有のほてりやのぼせ、めまい、不眠やイライラ、頭痛、冷え性などの心身の不調の軽減にも役立ちます。

更年期障害には精神安定剤を用いられることが多く、場合によっては、行動が抑制されて逆に悪化してしまつことが少なくありません。

それを避けるために、私は更年期障害の治療には、ホルモン治療を行い、それと並行して健康補助食品を勧めています。

RBS米ぬか多糖体を利用して患者さんたちからは、「体が軽くなった」「元気になった」といった喜びの報告が多数寄せられています。また、そのような患者さんたちは、更年期障害の症状が軽くなっています。

RBS米ぬか多糖体は、飲めば症状がすぐに治まるというものではありません。続けてとっているうちに、だんだんと体力・気力が充実して、効果を実感できるようになります。病気への抵抗力が落ちている人、体力が落ちていると感じている人にお勧めします。

治療を受けながら闘病する方たちが生活の質(QOL)を高めるために、最も重要なのが、体力を取り戻すことです。患者さんには、そのための食生活の重要性を話し、健康補助食品なども勧めます。よく勧めるのが、免疫力を高めることで医療現場で注目されている「RBS米ぬか多糖体」です。

細胞(NK細胞)を活性化することが証明されています。実際、化学療法や手術、ホルモン療法などを受けた25名の進行ガン患者で、RBS米ぬか多糖体摂取前と6カ月間摂取後のNK細胞活性を比較した調査では、個人差はあるものの、RBS米ぬか多糖体摂取後には、全員のNK細胞活性が上昇していました。

このことから、RBS米ぬか多糖体には、ガンに対抗する力を強化する作用があると考えられます。

また、RBS米ぬか多糖体を勧めたガンの患者さんには、痛みが軽減されたという人もいます。ですから、RBS米ぬか多糖体は、ガン患者の化学療法副作用の軽減と生活の質の改善にも寄与すると考えられるのです。

健康な人でも、RBS米ぬか多糖体をとって免疫力が高まると、体の老化を進行させる活性酸素の量を減らす作用が期待できます。

私が以前行っていた活性酸素量を推定する研究では、RBS米ぬか多糖体をとっていない人に比べて、と

RBS米ぬか多糖体体験談

「RBS米ぬか多糖体」をとったら 抗ガン剤治療中にもかかわらず 体重が増えて手術後の体調も良好

熊倉良子さん 48歳

触診で右の胸にしこりがあることに気づき、病院で検査した結果、ステージ3の乳ガンであることがわかりました。遠隔転移はありませんでしたが、胸の中でリンパへの転移があるため、抗ガン剤治療後に手術をすることになりました。

初めの抗ガン剤治療は4回受けましたが、抗ガン剤は非常に辛いものでした。嘔吐・発熱・手足のしびれ、脱毛などに悩まされたので、「次の抗ガン剤治療は拒否したい」と思うほど、我慢の限界でした。

なんとか抗ガン剤をやめられないか、とセカンドオピニオンを受けたさい、医師から「RBS米ぬか多糖体」をとりながら、治療を継続したらどうですか」と勧められました。

勧められたとおり、RBS米ぬか多糖体「再発が心配なので、これからは」といいます。



「再発が心配なので、これからは」といいます。

糖体をとりながらの2回目の抗ガン剤治療が始まりました。すると、前回とは大きく違うことに気づいたのです。抗ガン剤治療中はやせる、といわれているのに、2kgも体重が増えました。もちろん、むくみで増えたものではありません。吐き気もありません。また、「下痢するかもしれない」といわれていましたが、下痢をすることもありません。食欲が落ちずに、食事をおいしく食べることができたからです。

1回目の抗ガン剤治療後に少し残っていた髪や眉毛は、2回目の抗ガン剤でほとんどなくなっていました。ところが、驚いたことに、抗ガン剤治療中に、抜けているそばから少しずつ、ほんとうに少しずつですが、髪の毛が生えてきました。

そして、体力も落ちることなく無事手術をすることができて、術後の体調も良好です。でも、やはり再発が心配なので、免疫力の活性を維持していきけるよう、これからもRBS米ぬか多糖体をとって続けるつもりです。